

## 本橋テープ株式会社

## 細幅織物（テープ）専門メーカーが見た目も機能もこれまでとは異なった新製品を開発

## 本橋テープ株式会社

本社所在地 静岡県榛原郡吉田町住吉3216-5  
設立 昭和61年5月  
資本金 1000万円  
従業員数 30人

<http://www.motohashi-tape.co.jp>

素材メーカーから  
完成品メーカーへの転身図る

カバンの補強やバッグの持ち手などに使用される細幅織物（テープ）の専門メーカー、本橋テープが製造販売する「タフフック」がアウトドア愛好家に人気となっている。同社初のオリジナル製品で、テープの片方の縁にナイロンひもをループ状に織り込んだ「ルーティ」から誕生した新商品。ルーティの両端に金属製締結具を取り付けたもので、テントなどの支柱間に張り、テープのループ部分にハンガーやコップなどをつるせるものだ。本橋真也社長は「素材メーカーから完成品メーカーへの足がかりにしたい」と独自製品に期待を寄せる。

本橋テープはバッグ向け化学繊維テープの製造販売が主力事業。テープは一般に、幅127ミリメートル以下の織物を指し、同社は標準品で3000品種をそろえる。国内有名ブランドのカバンにも採用され、品質や美観の評価は高い。量産モノが海外に移っていく中で、国内カバンメーカーなどからの多品種少量の注文に柔軟に対応することで生き残ってきた。一方で本橋社長は、リーマン・ショック後の落ち込んだ業績を立て直すため、テープを活用したオリジナル商品の開発に取り組んできた。



3000アイテムにも及ぶテープをそろえている

現状打破に向けて、  
次々と商品開発に着手

苦境の中、最初に商品化したのは携帯ストラップ。「手探り状態での商品化だった」（本橋真也社長）と当時を振り返る。次いで、さまざまな柄を熱転写できるプリント用のテープを開発。ベルトや首輪用に採用されたものの、いずれも2次加工製品。「テープの売り上げを増やすのが目的」（同）のため付加価値が低いのが悩みだった。

新製品のアイデアを模索する中、装飾に使用されていたループ付きテープを見て「強度を上げると何かに使える」（同）と直感した。テープにループを付けることで、形状を変えたり機能を持たせたりすれば付加価値の高いオリジナル製品になると考えた。

早速、既存設備を活用してループ付きテープの試作品「万能フック」を製作。ギフトショーなどの展示会に出品して、来場社の反応を探った。

この結果「ループの間隔や大きさを変更できないか」といった要望が多く、このニーズに応えた新製品開発に乗り出した。



テープ製造技術を生かして新製品開発を進める

## 製品紹介



テープにループを付けて形状を変えたり機能を持たせたりすれば高付加価値の独自製品になると考えた



支援事例

本橋テープ株式会社

手探りの状況からアイデアを練り、市場ニーズをとらえて事業を展開した

## ものづくり補助金で コンピューター制御織機を導入

ループを形成するには、テープを織る際に経糸(たていと)の上下動をコントロールする必要がある。しかし、既存設備では上下動させる機構がチェーン式のため自由度が低かった。そこで、ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金(ものづくり補助金)を活用し、経糸の上下動を任意に設定できるコンピューター制御のテープ織機を導入。ループの間隔や大きさの設定が自由にできるようになった。

しかし、導入したテープ織機はリボンなどの薄物向け。本橋テープが得意とする厚さ1・5ミリメートルの厚手テープを織るには経糸を引っ張る力が弱いのが難点だった。このため、経糸を引っ張る装置のローラー部分を改良。摩擦抵抗を上げて引っ張り力を強化した。また、ループになるナイロンひもの送り出し速度調整部品やループ形状を安定させる部品を製作するなど工夫を重ねていった。

改良したテープ織機を使い、テープの幅やループ間隔の異なる試作品を多数製作。試作を重ねる中で、ループの引っ張り強度を高める条件も研究。ループの耐荷重は30キログラムを実現。テープ幅25ミリメートル、ループピッチ35ミリメートルの「ルーティ」が完成した。



引っ張り力を強化したテープ織機

## キャンプ用アイテムとして発売し、反響大

自社開発製品ルーティを売り込もうと、展示会だけでなく地元のフリーマーケットなどにも出品。丈夫さを生かして、衣料品や靴のひも通し部材向けなどの用途を積極的にアピールした。ところが「家庭や出張時の洗濯物干し目的で購入する人がいた」(同)と意外な使い道に驚かされた。さらに、アウトドア愛好家がルーティを使用した商品「タフテック」をキャンプ用アイテムとしてインターネットで紹介。これがきっかけで、両端に金属製締結具を取り付けたタフフックが急激に売れ始めた。

現在、テープ両縁にループを織り込んだ新型ルーティの要望が顧客から寄せられている。「これに応えるには織機に手を加える必要がある」(同)と話す。このため、機械部品の設計、製作担当者を配置。工場内には金属部品の加工ができる工作室も設置する計画だ。モノづくり力も高め、オリジナル製品開発への取り組みをさらに強化して、完成品メーカーへの脱皮を図る。



キャンプ用として人気がある「タフフック」